

飛騨市（自然公園） 獣害対策シンポジウム

～大切な自然を未来につなぐ～

11.4 土

13:30 ▶ 16:00



池ヶ原湿原のイノシシ



自動撮影カメラ



ヨシ刈りの様子

基調講演

自然公園における獣害対策（福島県駒止湿原他）

奥田 圭 広島修道大学/准教授

2013年東京農工大学大学院連合農学研究科博士（農学）取得。宇都宮大学農学部附属里山科学センター、福島大学環境放射能研究所、東京農工大学農学部・農学府を経て、2018年より現職。シカやイノシシがどのように分布を拡大させていくのか、彼らは分布拡大地においてどのような生態を有しているのか、そして彼らが高密度化した際、どのような生物が影響を受けるのかなど、フィールドワークをベースとした哺乳類の生態や管理、他の生物との相互作用に関する研究を展開している。

活動紹介

池ヶ原湿原の自然保全活動

岩佐 勝美 池ヶ原湿原自然保護センター所長

飛騨市宮川町出身。池ヶ原湿原の植生回復、乾地化抑止など生態系維持に17年間に渡って取り組んでいる。

また、飛騨の森ガイド協会会長も務め、飛騨の豊かな自然資源の「保護・保全」と「活用」を両輪で推進する中核を担っている。

お申込はこちらから！



飛騨市獣害対策シンポジウム

【開催日時】 令和 5 年 11 月 4 日 (土) 13:30~16:00 (受付開始 12:30~)

【開催場所】 飛騨市役所 西庁舎 3 階大会議室 (飛騨市古川町本町2-22)

【申込締切】 令和 5 年 10 月 27 日 (金)

【受講料】 無料

【対象】 一般

【定員】 70名 (先着順)

【開催趣旨】

お申込みフォームはこちら

<https://logoform.jp/form/zBph/382355>

または

飛騨市 獣害対策シンポジウム

検索



飛騨市では自然環境保全を「まちの誇り」と「将来への責任」と位置づけ、令和 4 年度より重点的に進めています。飛騨市は面積の 93% が森林であり、そのうち 68% が広葉樹と豊かな自然林を有しています。自然循環のまちを目指し、自然の恩恵を最大限活用し、還元できるよう「広葉樹のまちづくり」や「薬草プロジェクト」など様々な取組みを進めています。

その中でも岐阜の尾瀬とも言われる「池ヶ原湿原」は、毎年 40 万株のミズバショウが咲き誇る人気のスポットです。誰にでも優しい森を目指し、車椅子やベビーカーでも安心して散策できるようバリアフリーの木道や多目的トイレを整備しています。

また、豊かな湿原の植生を守るため、毎年夏に湿原の富栄養化と乾地化を防ぐ「ヨシの刈取り・搬出」や「外来種除去」に取り組む他、本年からは「森スケ！」プロジェクトを立ち上げ、「保全活動の見える化」と「保全ボランティアの拡大」、さらには「保全作業の旅行商品化」も進めています。

しかし、新たな問題が発生しています。近年、イノシシによるミズバショウの根（鱗茎）の掘り起こしと食害が増加に加え、ニホンジカの侵入も多く確認されています。湿原における獣害対策の知識が乏しい中、岐阜県や岐阜大学をはじめ、地域の協力も得ながら対策を進めています。今回のシンポジウムは「大切な自然を未来につなぐ」をキーワードに、全国で同様の課題を抱える地域の皆様と繋がり、一緒に取組んでいくネットワークができればと思っております。

【プログラム】

- 基調講演 「自然公園における獣害対策（福島県駒止湿原他）」 奥田 圭
- 活動紹介 「池ヶ原湿原の自然保全活動」 岩佐 勝美
- 状況報告 「獣害対策の現状」 岐阜県野生動物管理推進センター
飛騨市 林業振興課

【主催】 飛騨市・岐阜県野生動物管理推進センター